

二十周年を迎えて

新潟県山野草をたずねる会会員
(環境カウンセラー・自然観察者)

小日向孝

産声を上げてから二十年、思い起こせば、昭和五十七年、日本社会は高度経済成長に

件の公害抵辯と人々が自然への翻弄した行為で消失していく緑と地域の自然環境の破壊のまつ最中でした。良心ある主婦のグループ五人と学校の理科教師十名の計十五名でのスタートでした。

都合のつく日に東山や西山の自然観察を行う活動がしばらく続きました。その後、会員の増加と組織の確立、会則の規定等で活動が軌道にのりました。昭和五十九年環境庁の緑の国勢調査で環境庁の登録団体、昭和六十一年に機関紙『かしのみ』を初刊。以来、会員の協力と結束で活動内容が充実し順調な歩みをしていますことを皆様と共に喜び合いたいと思います。これまでに陰に陽に御支援御協力いただきました皆様方に厚く御礼申しあげます。

和六十一年に機関紙『かしのみ』を初刊。以来、会員の協力と結束で活動内容が充実し順調な歩みをしていますことを皆様と共に喜び合いたいと思います。これまでに陰に陽に御支援御協力いただきました皆様方に厚く御礼申しあげます。

会員は入れ代わり立ち代わりの八十名内外で推移しましたが新世紀を迎えて会員が増え、現在百三十余名の仲間となりました。会の根本理念は、自然に親しみ健康で人間性豊な生活を目指し、植物の生きざまに学ぶと共にいのちと心の癒しを追求することです。

会の目的を達成するため次のような活動を行っています。

一つは、植物の生きる力と活動の自然観察会による植物社会の探など自然の理解や認識・県内外での合宿研修。調査・講演会・講習会の開催等

五十年のいのちと心を「生やし、育て、植える」十万本植樹を目標に地域の潜在自然植生構成種のウラジロガシ、アカガシ、ブナ等の実生（ドングリ）育苗し公園や学校、公共地、社叢林等に植樹

三つに、森や自然の恵みの体験活動一日々の生活の闇いと心の安らぎや癒しを求める

の生活の満足感。心の安らぎ、精神の休息と共に自然の恵みである山菜、キノコをはじめ薬用植物、健康茶や生け花に利用できること

四つに、関係団体との協力連携、支援、交流活動
五つに、機関紙の発行と会員の親和を高め

る活動
にいがた緑の百年物語—木を植える県民
運動が台まりました。しかし、自然の保護

運動が如きにまじかにいたる自然の体調や保全と回復という言葉や緑の重要性と必要性は認識されていても眞の緑の意味や

新潟県山野草を
たずねる会機関紙
第 17 号
会員数134名(12/1現)
事務局
長岡市下条町1406-6
会長
小日向 孝
TEL 0258-23-1317
印刷
(有)佐藤印刷所
TEL 32-0681

『緑の質』が理解されていない緑化が行われる事例を目にします。また、『豊かな新潟県なのになぜ緑なのか』とか、『森が沢山あるじゃないか』『樹種は何でも良いのではないか』という言葉を耳にします。

らつけられたものです。会員一人ひとりが、かしの実として育ち、後に素晴らしい樺の木になつて、素晴らしい森（社会）をつくりあげていこうではありませんか。

会の理念がより多くの人々に理解され、仲間が増え、会が一層深化発展していくことを期待しています。

本物は長もちする
横浜国立大学名誉教授
本会最高顧問 宮脇 昭

横浜国立大学名誉教授
本会最高顧問 宮

四

新潟県山野草をたずねる会20周年記念に

あたり、心からお祝い申し上げます。

のだと思うのです。エコロジカルな自然観に立つてその土地の潜在自然植生の構成種を植樹することが真の緑化なのです。海辺地域にブナや高海拔域にソメイヨシノの植樹でなく、その土地の潜在自然力に合致した樹種を植樹する県民運動の推進が望まれ

長岡市周辺の潜在自然植生は、海拔四十m内外域およびその周辺域は気候の温かさの指数（温量指数）は百内外で植物の生活する気候としては温暖帯に属し、冬も緑の常緑広葉樹（照葉樹）のウラジロガシ、アカガシ、海岸に近い内陸部はスダジイ、タブノキ、シロダモなどの生育域に、四十mから海拔百m内外はコナラの生育域、それ以上の海拔域はブナの育成域に対応します。アカガシ等の常緑広葉樹（照葉樹）や落葉広葉樹のコナラ、ブナの木は、かつては地域の人々のいのちと生活を支えてきました

し、これからも支える「いのち」の木なのです。アカガシ等は出世樹といわれ地域の極相的な緑なのです。幼苗の時は他の樹木の日陰で我慢して育ち後に生育して半陽樹やがて他の樹木に代わって陽樹となり、天下をとり安定した社会を形成して三百年以下生き続けるのです。

機関紙『かしのみ』の名称は会の理念か

二十年を振り返って

小幡 和雄

私は、この会の発足当初から、小日向会長さんにお世話になりっぱなしで今まで来ております。発足当初、この会が二十年も続くんだろうかと私自身思つておりました。正直言つて「よく続いたなあ」というのが率直な感想です。その最大の要因は、小日向会長の情熱だと思います。そしてそれと同じくらい、植物を愛する会員がたくさんいたということだと思います。

今、振り返りますと十五周年の記念として「生命（いのち）の森」というこの会独自の本を出版したことが思い出されます。

明るく、元気で、楽しい会

金井 英雄

我が会も満20年に成り、この大事な節目に宮脇先生をお迎え出来、皆さんと共に喜びたいと思います。私は新米者で設立当初の苦労話はわかりません。どんなご苦労があつた事でしようか？小日向先生を初め関係者の方々には、改めて厚く感謝申し上げます。

さて今年の9月30日新潟日報の朝刊の一ページの大きさで我が『山野草をたずねる会』の記事が書かれておりました。これは我が会の理念でもあります、持続可能な自然環境をめざし、失われていく緑の回復を一粒の実からふるさとの森をドングリで再生し

本の趣旨は、植物同士は何気なくそこに生えているように見えて実は、密接な関連を持つて精一杯そこで生きているんだということを伝えることでした。この事業は大変な仕事となりましたが、今では、その本を作ることで、会長さんがいつも我々に説いてくださつていった「植物の生きざまに学ぶ」という意味がようやく分かつたよう思います。

現在、この会は、発足当初の同好会的色彩から、環境教育までも視野に入れたより深いものを目指す会に脱皮しようとしています。会員の中だけの学びから外に向かって発信する会に発展していくことだと思います。今後の益々の発展を祈っております。

美しい山野草、食せる山菜・キノコ採りだけだったら今、「新潟県山野草をたずねる会」はなかつたと思う。

発足時以来「ふるさとの木で本物のふるさとの森を作ろう」との一貫した会長の提唱があつたればこそ、20年の永きにわたつてこの会が存続してきた。

ふるさとの木とはどんな木だろう？本物の森とはどんな森だろう？の問い合わせあつたから続いて来たのだと思う。

会のホップ時には、その答を求めて森の植物を調べあげる植生調査を繰り返した。会長の他はほとんどが植物

名を知らず難行した。続けるうちに少しづつ分かり、森を構成する植物間に一定の決まりがあると知り、森の理解が深まつた。

三年前には、ドングリハウスを建てポット苗にして育て、神社の境内地に植えながら、適当な植栽地を探してきました。又調査から学んだことを「生命（いのち）の森」の本にまとめ、森の理解の普及に努めた。

三年前には、ドングリハウスを建てポット苗にして育て、神社の境内地に植えながら、適当な植栽地を探してきました。その苗で「蒼柴の森」植樹を三年続けて行つて來た。時あたかも「にいがた緑百年物語」がスタート。各地で森作りが行われるようになり、苗の提供、植樹の手伝い等、活動がジャンプする時を迎え、うれしい悲鳴が聞こえる。

「新潟県山野草をたずねる会」のホップステップジャンプ 細川 章子

新潟県山野草をたずねる会（新潟県植生研究会）20年のあゆみ

- 昭和 57 年 11 月 • 発足
- 昭和 59 年 7 月 • 会則設定・環境庁登録団体・緑の国勢調査参加
- 昭和 60 年 3 月 • 主な年間活動計画による活動開始
- 5 月 • 鈴木 邦雄先生を開む会
- 昭和 61 年 12 月 • 会報『かしのみ』第 1 号発行（以後年 1 回発行）
- 平成 2 年 4 月 • 会員各自ボットでトングリ実生育成開始（ウラジロガシ、アカガシ、スダジイ、シロダモ、タブノキ）
- 12 月 • 宮脇 昭先生を開む会（小千谷市での講演会参加）
- 平成 4 年 2 月 • 市内下条神社にアカガシ、ウラジロガシ植樹—ドングリ実生育成（会長）4 年生幼木
- 平成 8 年 6 月 • 長岡市 平和の森づくり協力
- 宮脇 昭先生を開む会
- 平成 9 年 11 月 • 15 周年記念式典・祝賀会
自然観察ハンドブック『生命（いのち）の森』—植物の生きざまに学ぶ—出版
—新潟日報・長岡新聞掲載・ケーブル TV 一報道
- 平成 10 年 8 月 • 宮脇 昭先生を開む会
- 平成 11 年 6 月 • ふるさとの森づくりを目指す『ドングリ実生育苗』
—新潟日報掲載—6 月 17 日朝刊
- 平成 12 年 4 月 • ドングリハウス建設—関原町 1 (4 / 22) 日報掲載
• ドングリ播種
- 5 月 • 日中友好万里の長城植樹参加 (5 / 4)
- 8 月 • いのちの森再生—蒼柴の森植樹 (8 / 19) 日報・長岡
- 10 月 • 新大附属小学校 100 年の森—植樹協力 (10 / 7)
- 11 月 • 湯沢みどりの会交流植樹 (10 / 22)
- 平成 13 年 4 月 • にいがた緑の百年物語—森・緑・花づくりボランティア県民の集い発表
• 宮脇 昭先生を開む会
• にいがた緑の百年物語—木を植える県民運動—植樹、イベントに参加 (4 / 29)
- 平成 14 年 6 月 • いのちの森の再生—蒼柴の森植樹 (6 / 9)
- にいがた緑の百年物語—森づくり 2002 蒼柴の森（県助成）(6 / 9)
- 9 月 • いのちの森の再生—蒼柴の森植樹 (6 / 9)
- 10 月 • 会の活動と取組み状況—新潟日報掲載 (9 / 30)
- 11 月 • 芹洋子とつくる緑の百年物語—森づくりの集い—亀田植樹参加 (10 / 19)
- 12 月 • 長岡市八方台休暇センター跡地植樹（市委託）(11 / 17)
- 20 周年記念式典・祝賀会・記念講演会—『緑の講演会』

森づくり2002—蒼柴の森



緑鮮やかな蒼柴の森——長岡市悠久山公園の蒼柴神社に隣接する約一ヘクタールの用地で、前夜からの恵みの雨も上がった、平成十四年六月九日(日)「森づくり2002——蒼柴の森」が開催されました。昨年の「森づくり2001——荒川の里」に続く開催でした。

今回は、新潟県山野草をたずねる会(新潟県植生研究会)が、三年前から取り組んでいる『い

のちの森再生』ふるさとの森——蒼柴の森植樹と共に行

われました。

午前九時三十分、植樹準備が整えられた会場で、主催者の新潟県山野草をたずねる会会長小日向孝氏が「十九万長岡市民ならびに三百五十万県民の命と健康の保持、県及び市の持続的な発展、そして心のよりどころや命の森としての蒼柴の森の成長を願い植樹したい」の開会の挨拶で始まりました。来賓の挨拶と紹介、植樹説明と標柱披露の後、十時から植樹に入りました。苗木は、潜在自然植生の構成種のウラジロガシ、アカガシ、シロダモ、シラカシの四種類でドングリ実生でポットで育てられた三~四年生一百五十本を植樹しました。

植樹後の十時四十分から十一時四十分まで「青空シンポジウム——いのちの森づくりや緑への思いとふるさとの自然を語る」が行われ、締め括りに社叢林の自然観察会が行われて午前十一時十分閉会しました。

来賓に、長岡市長森民夫氏、蒼柴神社宮司永井康夫氏、にいがた緑の百年物語緑化推進委員会常任理事啓発部会長小林正吾氏、専務理事樋口義毅氏、東北電力長岡営業所長高橋吉彦氏の他、県議会議員太田、松川の各氏、長岡林業事務所北島朗子氏、長岡市議会議員の大地、小熊、高野、家老の各氏の参加がありました。

パートナー団体の湯沢みどりの会の他二団体、支援協力団体の東北電力長岡営業所、イオングループ長岡ジャスコ、長岡法人会、長岡林業事務所、柄尾高校、長岡農業高校の生徒の皆さんと会員、一般市民、子供の総勢百六十名を越す参加者で盛会のうちに終了しました。次年度の「2003年の森」に期待します。





これからの森づくり
森づくり2002—蒼柴の森

[平成14年6月9日]

青空シンポジウム

～いのちの森づくりや緑への思いとふるさとの自然を語る～

—蘇れ命の森とふるさとの森—

太田	修氏	(県議会議員)
松川キヌヨ氏	(県議会議員)	
大地	正幸氏	(長岡市議会議員)
小熊	正志氏	(長岡市議会議員)
高野	正義氏	(長岡市議会議員)
家老	洋氏氏	(長岡市議会議員)
北島	朗子氏	(長岡林業事務所)
斎木	実氏	(八箇振興会)
高橋	一郎氏	(湯沢みどりの会)
小沢	文弘氏	(イオングループ)
波多江	淑氏	(会員一東京)
志田	信子氏	(会員一教員)
桜井	繁氏	(宮内八丁目会長)
小日向	孝	
コーディネーター		

松川 昨年植えた木がしつかり根付き、大きくなり嬉しく思ふ。皆さんと一緒に木を植えられた幸運を感じている。柄尾高校、長岡農業高校の生徒さんの若い人達が参加し、協力されていることは嬉しいことです。百年で緑いっぱいにするという目標の県の方針も皆さんに勇気と元気の力を与えてくれると思います。みんなでいい木を育てましょう。

本物の里山を造つて緑を増やし
ます。まだ広大な荒地があるので、
そこで木を植えようと考へ、県立
歴史博物館前に植樹を始めてい
ます。太平 県も市も開発に努力した
スペースネオトピア構想が夢とな
った糠山、残つたのは禿山でした。

小日向 植樹を予定どおり終わらせて頂き御礼申し上げます。私たちは、人々の心の自然回帰と本物の命の森を育て、自然回復を願いドングリ作戦に取り組んいるところです。命の森づくりや緑の保護：地域の自然を語るということで、二百五十万県民の命と健康を守る県議の立場からお話をいただき

●若い人たちの参加が励みに

嬉しく思
います。これ

高野 苗木を植えている時、植え終わった時、「今日は気持ちがいいわね」という声があちこちで聞こえました。来年は草刈りから参加されれば今日の一倍、三倍の素晴らしい気持ちになれる。来年は是非草刈りから参加しましょう。

小日向 森市長がお帰りになる時、町の真ん中に本物の森をつくりたい。それが市民を守る森になる。と感想を述べていただきました。自然と調和する町づくりは私たちの会の理念と一致するところであります。期待したい。町づくりに励まされている市議会議員の皆様から発言をいただきたい。

●町の真ん中に森をつくる





「町の真ん中に本物の森をつくる」
それは、操車場跡地に防災公園の構想を市が持っています。今日と同じように皆さんと一緒に本物の森をつくり植えたい。追回し橋や千手等、町の真ん中から緑が全部なくなりました。本当に寂しいことです。町の真ん中に本物の緑と命の森を考えています。

小熊 会のキーワードの縦軸は命の森、横軸はあるさとの森にある。植物を育てる窒素、燐酸、カリの三要素だけでつくったトマトは水に浮き、完熟堆肥でつくったトマトは沈みます。完熟堆肥には微量元素があり、それが生きた



トマトをつくったのです。トマトを通して命の森、命の野菜を考えました。町の中の緑ということでは、一軒一木運動はどうでしょうか。どんなに小さな庭にも、その庭に合った木がある。潜在自然植生について小日向先生の指導を受け、地域の森をつくれればいいと思います。

家老 今日の集まりを見て、市民一人一人の力の大切さを感じました。ドイツでは、緑は文化と考えてきました。皆さんも聞いて下さい。緑を増やすと共にそれらを通して教育のお手伝いをしていきます。

北島 今日は良い体験と良いところを見させていただきました。これらの林業行政の参考にさせていただきます。

桜井 町内でも大木の柿木が減少しています。また、木の葉が落ちる前に街路樹の枝打ちをしろと要求する電話が時々あります。御協力有り難うございました。

大地 長岡市民の命と健康を守りたいく緑の環境づくりは、潜在自然力を活かした自然植生に近いものを増やしていくことが必要であります。植林で失った人々の感謝の心と自然と一体化した日本本人の心を取り戻したい。

●命の森で生かされ生きていく

東北電力 緑に触れることが少ないと言うことで子供を連れてきました。子供が楽しく植樹したので、連れて来て良かった。これからこうした機会を大切にしたい。

斎木 十日町南中のふるさとの森づくりで小日向先生の指導助言を受けました。五ヘクタールの里山に紫陽花を植えています。緑との共生を心がけていきます。

小日向 すべての生き物が生きていくには、酸素が必要です。植物が生きるために栄養分である炭水化物、脂肪、タンパク質は、水、二酸化炭素、窒素、燐酸、カリ等と、太陽光によって葉で合成されます。

植物は二酸化炭素を吸収し酸素を放出します。生きための酸素と栄養合成時の放出酸素の比較で合成時の放出酸素の方が遥かに多く、合成で吸収する二酸化炭素は呼吸で吐き出す二酸化炭素に比べ遥かに多い。地球温暖化で二酸化炭素が問題になっている。植物の吸収する二酸化炭素、それは、植物の乾燥重量の「一分の一」とありますか？木に聴診器をあてて聞きます。皆さんも聞いて下さ

い。緑を増やすと共にそれらを通して教育のお手伝いをしていきます。

持続可能な命の森・ふるさとの森の蘇りを願い、これで終りにします。御協力有り難うございました。

尽きないシンポジウムですが、文化は知恵であり知識です。緑と言う日本文化大切にしないと日本は滅びます。自然を愛することが日本を愛することになると思います。

長岡市民の命と健康を守りたいく緑の環境づくりは、潜在自然力を活かした自然植生に近いことができるのだと思いま



山野草をたずねる会に参加して

野本 幸助

昨年暮れの学びあう会より参加させていただき、ドイツの環境問題調査研修の話を聞き、小日向会長の御活動の広さに驚き、また今年度の会の活動への参加を楽しみにしておりました。そして今年、早春をたずねる会より参加し、青海町の羽黒神社で先生の説明を聞き、親不知パークで総会を行った後、毎年恒例となつてゐる西山町の石部神社を初めて訪れました。椎の森の中で空を見上げると、枝葉の伸張の自然美、空間を占有したいという植物会の生存競争のすごさ、本当の森を垣間見て、感動しました。

また蒼柴の森の植樹では、準備段階から下草刈、地ごしらえ、割り付等、会の皆さんと力を合わせ心地よい汗をかきました。当日は、二百本以上のアカガシ、シラカシ、ウラジロガシ、シリダモの苗を植え穴掘りから植栽、添え木まで、あつという間に終わり、なにかには親子連れの微笑ましい光景も見られました。来年は我が家も必ず家族全員で参加することを決意しました。

普段は、たまに狭い庭でガーデニングのまねごとをしていますが、これからは会の先輩方から、活動を通じて色々楽しみながら教わりたいと思いまがる本当の森づくりに少しずつでも、未永く貢献して行きたいと思います。

会とともに

渡辺 ゆき子

私が生まれたのは八石山の麓“善根”という山あり川ありの緑濃いのどかな村です。四季折々の自然の恵みを体いっぱい吸い込んで大きくなりました。そんな私も就職・結婚と生活がめまぐらしく変化し自先の事に心奪われ、いつの間にか古里の風景も忘れがちになつていきました。ところが、川崎の森の縁でこの会にめぐり逢い再び自然の素晴らしさに触れる事ができたのです。子供の頃に見た原風景が甦ってきました。木や草花は何も語りませんがそこにいるだけで“やすらぎと生きる喜び”を与えてくれます。森や林の中に身をおく時生きかえった気分になるのは、きっと誰もが感じる事のできるエネルギーが出てゐるのでしょうか。余りにも荒んだ今の世だからこそこの自然の力を多くの人達子供達に味わつて欲しいのです。この思いが日々強くなる私は。自然の森・古里の森・鎮守の森がいつまでも守られ受け継がれていく為に、この会の活動がいかに大切かと改めて感じる今日今頃です。会長を始めとし会員の皆様の努力に感謝すると共に、会創設二十周年を期に微力ながらお手伝いさせて頂きたいと心機一転がんばります。



ドングリハウス鉢替え作業に参加して

田辺 春江

9月8日残暑の日よう日、久しぶりにドングリハウスの作業に参加した。実生苗が50cm前後の丈に育つてある。この鉢替えの作業ということ。着いたら既にハウス周辺の草刈りや、ポット出しが始まっている。猛暑の8月を過ぎてハウス外の草丈は繁りに繁つて、夏草だわー。電動の草刈機が快音をあげて倒して行く。苗木ポット出しを手伝う。小さなポット穴から根が伸びて持ち上げるとベリベリとはがれる。実生苗のたくましい生命力と、これまでの散水や遮光などお世話した方々に敬意をはらつて、ここは真面目に。ハウス脇のネムの木陰で昼食班が味噌汁や野菜の天ぷらを揚げている。汗がにじむ活動が心地良い。

ハウスの外にシイ、カシ、タブなどの苗木が並ぶ。鉢替え作業に移る。腐葉土と鹿沼土と普通土のブレンンドの盛土の周りに5~6人で腰を降ろし、ひと囲り大きなポットに植え替える。黙々と手を動かす。こんな単調な作業が何故か楽しい。疲れてくると軽い冗談も出たりで和やかな空気が流れている。新潟日報の取材さんが会員にインタビューしたり写真撮つたり。月末に広告面としてイラスト紹介するとのこと。(9月30日)失われていく緑の回復を、ひと粒の実から。うまい言葉とそつくりさんのイラストで詳しく報じられていた。私はこの会に2つの楽しみがある。植生観察で森や林の中に入ること、フィトンチッドで心リフレッシュ。それと昼食。この日も広いビニールシートの座敷が出来て皆さんで円く坐る。味噌汁、天ぷら、それに西瓜も遠慮なくいただいてごちそうさまでした。

さわやかなひととき

木曾 誠子

今日はドングリハウスでの作業です。育苗作業で育てた苗をポットに植えかえるのです。昨年、一昨年と育苗箱にまたドングリは成長し、しつかり根をはつてあります。その一本一本をポットに植えました。シラカシ、ウラジロガシ、ウバメガシ、ミズナラ、ハナミズキなど、たくさんポット苗ができる。実生苗のたくましい生命力と、たくさんのポット苗ができます。今年の夏は例年にない暑さだったので、神社脇の借りている建物の周囲の大きな木々は、暑さをやわらげてくれました。木蔭で子供達は元気に過ごしました。クーラーもほとんど使わずに夏休みを終えることができました。先日子供達は「秋を探しに行こう」と言つて、袋を持って外に出ました。落ち葉を見つけて拾うその顔は輝いていました。これらの木々は、いつも自然に育つたにしても、切らずに残してくれたのでしよう。私達はたくさん木々に守られて生活しています。

今日植えかえた苗も、いつの日か喜んでもらえる日が来ることを夢見ながら、とてもさわやかなひとときを過ごすことができました。その後のキノコ汁のおいしかったこと…。どうもありがとうございました。

合宿研修(七月二十日・二十一日)
富山・五箇山の旅

小笠原 文夫

「はてもなき砺波のひろの杉むらにとりかこまるる家々の見ゆ」。今回の旅のしおりに昭和四十六年宮中歌会初めでの御製だとある。標高約九百メートルの繩ヶ池駐車場から見下ろした散居村の風景がまさにこれであつた。絶景である。

城端町の「繩ヶ池」は湿地性植物の群生地で、ミズバショウが五万株以上あるといふ。水辺の草は花の盛りを過ぎていたが、草いきれがよかつた。池の水がなおきれいに見える。

富山市の「吳羽丘陵」は公園だ。斜面は富山特有の木に覆われている。街を見渡せる高台で、雪見の酒を想いながら、冷たい麦茶を飲んできた。同じ富山市の「古洞の森」は大きな雑木林である。この時季の林は華やかさを欠くが、木々の枝葉が生い茂つていい。木陰がとてもさわやかだつた。花の頃に、「繩ヶ池」を、紅葉のときに「吳羽丘陵」を、紅葉のときに「古洞の森」を改めて訪ねてみたい。

世界の「五箇山」は賑やかだつた。伊波町「瑞泉寺」も観光地である。伸び放題にした石垣のつづじが面白い。利賀村「かんぽの宿」の菜膳料理は効く。懇親会はすごく盛り上がりがつた。合宿研修の菜肴は人里がよい。

ようこそ!
新入会員名簿

お名前	住所
高橋 美津子	見附市本所
楨 美智子	長岡市昭和一
高頭 丈子	長岡市水道町五
矢島 文夫	長岡市江陽二
野田 明子	長岡市学校町一
佐藤 浩	長岡市宮原一
佐藤 勲	長岡市南町 賛助
井上 光威	小千谷市千谷川二
田所 仁	長岡市喜多町 賛助
佐野 宏子	長岡市小曾根町
田中 三津男	刈羽郡刈羽村下高町
今井 チ工子	長岡市殿町一



参加者記念撮影



八方台植樹

長岡市では八方台休暇センターの廃止に伴つて、その跡地や周辺を元の森に復元する方針を立てた。森づくりは、山野草をたずねる会だらうということになり、会に依頼があつた。急な話であつたので、時期的に少し遅れてしまつたが、会員の皆様の御協力で、なんとか植樹することができました。まだ、広大な面積が残っています。これからも会による植樹が計画されることになると思いますので、がんばりましょう。

今年の植樹面積は、12M×26Mで40種、413本。主としてブナを中心とした森(ヒメアオキーブナ群集)です。

溪流のほとりに生えるアズマシロガネソウは地味な美しさがあります。初夏各地の山裾の湿つたところにコシジシモツケソウの美しい花が咲きます。ボリュウムのあるトリアシショウマ、スリムなヤマブキショウマが咲きます。オカトラノオは各地に生えています。スマトラノオは湿地に生え、葉も花穂も細く弱弱しく見えます。秋リンドウは晴天の日に咲きます。サラシナショウマは木陰で純白の尾のような花をつけます。シラネセンキュウは白い小さな花を傘状につけます。オギの花穂は銀色に輝きます。ツリフネソウは各地で赤い花をつけます。ツルアリドウシ、ツルリンドウは赤い実をつけます。



八方台の植樹

小国の植物

青柳 秀雄

